

文部科学省の生涯スポーツ功労者に  
選ばれた

にし かわ かつ お  
西 川 勝 夫さん(69)

ひと



県水泳連盟の

要職を長年務め、競泳、飛び込み、アーティスティックスイ

ミング(A.S.)競技の普及に貢献した。「選手ファースト」を掲げ、家庭環境や精神面にも目を向け、本県の競技力向上に力を尽くした。

幼少期からスポーツは得意で、野球や相撲は「人並み以上にできた」が、ただ一つ水泳だけが苦手だった。家訓の「何があつてもめげない」をモットー

に猛特訓を重ね、県高校総体の100メートルバタフライで2連覇を果たすまでに成長した。

進学した岩手大に水泳部はなく、1年間は柔道部で汗を流した。自らが発起人となり、3年時に水泳部を設立させた。

大学卒業後は、中学校の学校現場や県教委でスポーツによる障害を防ぐ指導を实践。同連盟内に飛び込みやA.S.の組織も立ち上げ、認知度や競技環境の向上に努めた。

妻欣子さん(68)と2男1女を育てた。今夏、洋野・中野中男子ソフトテニス部を全中優勝に導いた西川欣孝監督は次男。「線路はつくらず、とことん自由」と子育て論を語る。

1日平均5千歩は歩き、体調管理を徹底。「いつかトライアスロンに挑戦したい」と情熱は衰えない。

(運動部・千葉優雅)